

1. センターの概要

①沿革

I. 原虫病細胞免疫研究室（1983-1990）

1984年 4月 特別施設として「原虫病細胞免疫研究室」が家畜生理学講座（鈴木直義教授）内に新設（原虫病研究センターの前身）

II. 原虫病分子免疫研究センター（1990-2000）

1990年 6月 文部省令による学内共同教育研究施設（2000年3月31日までの時限施設）として原虫病分子免疫研究センター設置、分子免疫学分野新設

1992年 4月 細胞病態生理学分野（客員研究分野）新設

1993年 6月 研究棟新設（462 m²）、特殊実験動物室（P1～P3 安全基準完備室）、原虫病原株大量保存室設置

1995年 4月 耐病性遺伝子工学分野新設

1997年 4月 節足動物衛生工学分野新設

1997年 11月 研究棟増設（970 m²）

III. 原虫病研究センター（2000～現在）

2000年 4月 全国共同利用施設として原虫病研究センター設立、先端予防治療学分野と高度診断学分野の新設

2002年 3月 研究棟増設（1,730 m²）

2002年 10月 「21世紀 COE プログラム」に選定

2003年 4月 特定疾病分野、食品有害微生物分野、大動物巡回臨床分野の新設

2005年 4月 進化生物学分野、遺伝生化学分野、国際獣疫学分野の新設

2006年 3月 研究棟増設（1,520 m²）

2007年 6月 OIE（国際獣疫事務局）リファレンスラボラトリー（ウシバベシア病およびウマピロプラズマ病：五十嵐 郁男、スーラ病：井上 昇）に認定

2008年 5月 OIE コラボレーティングセンターに認定（原虫病分野では世界初）

2009年 6月 共同利用・共同研究拠点「原虫病制圧に向けた国際的共同研究拠点」に選定

2012年 11月 寄付講座「生命平衡科学講座（白寿）」を開設

2013年 3月 テニユアトラック普及・定着事業による地球規模感染症学分野の新設

2016年 4月 共同利用・共同研究拠点「原虫病制圧に向けた国際的共同研究拠点」に再認定

2017年 3月 OIE リファレンスラボラトリーにて、国際規格 ISO/IEC 17025：2005 認定を取得

2018年 1月 OIE/ISO 業務担当分野として、国際獣疫分野新設

②設置目的等

大 学 名	帯広畜産大学
研 究 所 等 名	原虫病研究センター
所 在 地	北海道帯広市稲田町西 2 線 13 番地
設 置 目 的	我が国の獣医・農畜産系大学で唯一の家畜原虫病に関する研究拠点として、大学、OIE などの国際機関ならびに関連省庁との研究連携により、人獣共通感染症としての原虫病の制圧と、動物生産性向上によるタンパク質資源の確保に努め、我が国は勿論、世界人類の健康福祉に学術的貢献をなし得る原虫病に関する総合的研究を推進する事。
研 究 内 容	原虫感染症は、地球規模でヒトおよび動物に大きな被害を与えているが、細菌やウイルスに比べて、有効な治療薬やワクチンが少なく、その制圧は困難を極めている。本研究センターは、原虫ゲノムの解析や原虫感染に対する免疫反応、および原虫を媒介するダニや蚊等のベクターの生物学的解析を行うことにより、新たな診断、治療、予防法の開発を推進する。
責 任 者	センター長 玄 学 南
共同利用・共同研究拠点施設名	原虫病研究センター
拠 点 の 名 称	原虫病制圧に向けた国際的共同研究拠点